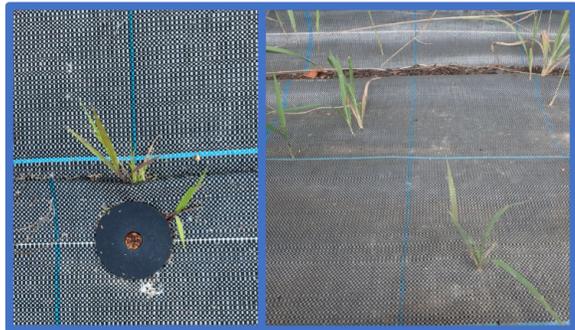


厄介な雑草等の繁茂を長期的に防ぐ 新たな防草工法

学術研究院環境生命自然科学学域(農) 中嶋 佳貴

防草シートやモルタル吹付は長期的な防草効果を期待して実施されるが、隙間や劣化による破れ、クラックなど僅かな空間から雑草が繁茂することが課題となっている。



隙間からの発生や突き抜け



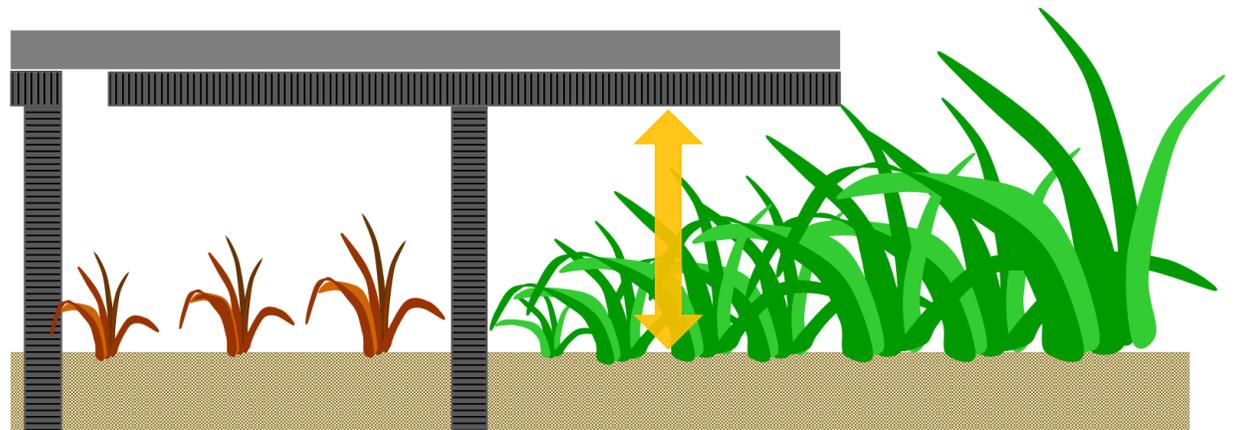
防草シート上に繁茂する雑草



穴やクラックからの発生

防草資材を地表面から浮かせて施工する新規防草工法『草出ん造®』

防草シートやモルタル吹付は地表面に接地させるが、本工法は地表面と資材の間に空間を設けて遮光し、雑草の生長を抑制して繁茂を防ぐ新たな手法である。



本防草工法における最適な設置高の検討および持続性



表 雑草の発生数 (本数/m²)

	0cm区	5cm区	10cm区	15cm区	20cm区
2022年12月2日	0.6±0.7	0.2±0.4	0	0	0
2023年10月24日	9.3±3.2	0	0	0	0
2024年6月27日	16.7±12.6	0	0	0	0

0cm区は発生本数が徐々に増加。
10cmより設置高が高ければ雑草の発生は認められない。



施工手順と施工後の状況（岡山大学農学部内試験地）



アンカー上にリブラス設置



各種資材を調合したモルタルを塗布



地表面と防草資材との空間

施工事例（フェンス・電柱・公園のり面）



フェンス（柱・網に密着）



電柱周囲も密着施工可



モルタル表面はデザイン可

光を一部取り入れることで防草しながら土壌流亡の抑制も可能



遮光区

採光区

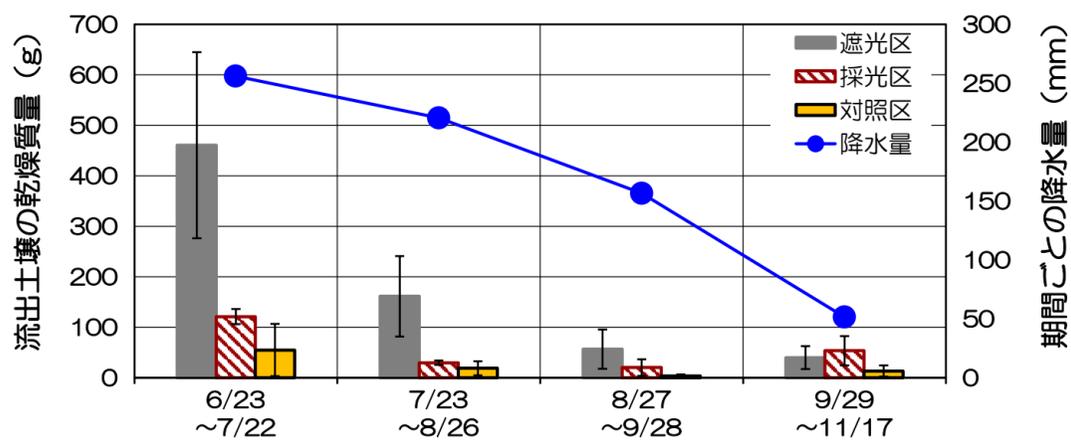


図 大雨後の土壌流出量の処理区間差異

遮光区、採光区、対照区の順に土壌流出量は減少傾向

本防草工法『草出ん造®』の特徴

- ① 防草施工表面から雑草が突き抜けない
- ② 電柱や建物があっても隙間なく施工できる
- ③ 軽量なので容易に移設・撤去可
- ④ 狭隘な場所でもどこでも施工可
- ⑤ 法面施工では土砂が流出せず法面を保護

これまでに実用化を妨げる不具合は見つかっておらず、新たな素材による本工法の施工や、誰でも施工できるキット化など、コラボによって汎用性を高めたい。

本技術に関する知的財産権

- ・ 発明の名称：防草構造体、防草用構造体、キット及びその設置方法
- ・ 出願番号：特願2022-122067
- ・ 出願人：岡山大学、(有)久井田工業
- ・ 発明者：中嶋 佳貴、高山 信美

